東京金山会通信 No.3

問い合わせ
東京金山会 広報担当（藤山善夫）
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

2019年６月16日９時！東京都日暮里駅から徒歩５分、ホテルラングウッド。前日の大雨から一転して外は28℃の快晴です。この日は東京金山会第61回総会「ふるさとを語る集い」です。皆さん、時間を忘れたかの様に早めに集合していました。

受付前で知り合いを見つけると！！「ひぃさすぶりだにゃ～！んだにゃ～！げんぎだったべが～！ほだにゃ～なんとがなってだっけ！まんずまんずきょうはよろすぐしてけろっちゃ～！」

受付横でカメラを構えていた藤山は、シャッターを切らずに会話を楽しんでしまいました。１年振りに会ってすぐに方言で話せる皆さんに感激しました。我が故郷金山町を忘れない！この瞬間を１年間楽しみして頑張ってきたのですね。

皆さん、受付前にて友人や知り合いと会われて握手をしたり、記念写真を撮ったりと懐かしんでおられました。参加された皆さん、お忙しい中、本当にありがとうございました。

ぶんぱい

金山杉俳句会報 第四二九回

辞令受く孫の一歩や春山河（はるさんが）　星川　きえ子

桜花命といふ名あっけなく　荒屋　阿部　勝子

残雪のひかりに急かる農支度　荒屋　関　喜美子

茶を運ぶ緑や草木の萌ゆる音

夏近し木々の緑の眩しさよ　岸　あき子

やせし母の肩叩きつゝ青葉見ゆ

眼界（まなかい）を代田に置きて指を折り

見事なり由来知らねどえびすぐさ　菅越　庄司　けみ子

夜桜の灯りに揺らぐ池の星　高橋　洋子

ゼンマイの干籠（ほしかご）とばす春疾風（はやて）

遠雷や田畑の動き忙しかり

井と代へし筍ごはんかな　七日町　青柳　キエ子

蒲公英の綿毛飛び交ふ遊歩道　鵜沼　よし子

長閑しや恙無き日の至福なり

立夏なり令和の言を繰り返し

昼酒の効いて饒舌五月（さつき）旅　七日町　柴田　栖静

新元号令和を祝（ほ）ぎてさくら咲く　阿部　サタエ

さざ波に乗りて令和へ花筏

かねやま紅風会

鳥海山（ちょうかいさん）の空は茜や独活の花

ほとゝぎす近くて遠き裾野道　羽場　坂本　徳太郎

雑草の主役となりぬ杉菜かな

水守（も）りて大合唱の刻待てり　上台　阿部　一歩

出羽の山今が盛りか夏蕨

夏の旅古代文化の寺巡り　七日町　村松　杏風

天恵の光（かげ）に安らぐ植田かな

調剤の一つ減りたり梅雨入（つゆいり）前

No.163 「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内

『おどりたいの』
（豊福まきこ／作）

深い森のはずれに美しい音楽の流れてくるたてものがありました。こうさぎはいつもそれが気になっていてしかたがありません。ある晩そろりと近づいてみると、中では女の子たちが音に合わせて踊っていました。動くたびに白いチュチュがふわふわと揺れています。「なんて綺麗でかわいいの」。一目で気に入ったこうさぎは、扉をトントン。そこはバレエの教室でした。こうさぎは、バレエ教室に入り、アン、ドゥ、トロワとレッスンを始めます。得意なことはジャンプ。バレエの発表会には、こうさぎは連れてってもらえないけど、ある女の子の提案により…。

「図書室だより」

中央公民館内　9：00 ▶ 16：00

『ドローンマン』
（妹尾一郎／イースト・プレス）

ある時ドローンを手にしたカメラマン妹尾は、老テレビカメラマン興（おき）に会い、世界の大自然の神秘に迫る旅番組のドローンカメラマンに抜擢される。ファッション誌の業界でうまく生きてきたつもりだった妹尾は、旅先での興の慈悲深い行動を目の当たりにし、次第に自身の軽薄さに気づき、あることを決意する。

『メモの魔力』
（前田裕二／幻冬舎）

メモとは生き方そのもの。メモによって世界が変わり、アイデアが生まれる。メモによって自分を知り、人生のコンパスを持つ。メモによって夢を持ち、熱が生まれる。その熱は確実に自らを動かし、人を動かし、そして人生を、世界を大きく動かします。誰もメモの魔力に気づいていない「本当のメモの世界」へようこそ。

新刊本 7月

※（　）内作者名

シーソーモンスター（伊坂幸太郎）／日本のことわざを心に刻む（岩男忠幸）／検事の信義（柚月裕子）／誰にも覚えがあるヘンな感覚の正体（博学こだわり倶楽部）／羽州ぼろ鳶組 玉麒麟（今村翔吾）

＼今月は18冊！／

カゲロボ（木皿泉）／麦本三歩の好きなもの（住野よる）／「地図」と「並列年表」でよくわかる日本史＆世界史（祝田秀全監修）　そのほか10冊

道草便り Vol.15

山形大学の地域連携型サークル「Team道草」
道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介！
「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します

稲沢地区「元気なお母さんたち」

今回は稲沢地区を取材してきました！なんと稲沢地区では「丹さん」がとっても多いんです！「丹さんに何人会えるかな！」とワクワクしながら稲沢を歩いた水曜日の午前。この日は暑くて外に出ている方はおらず「稲沢で誰かと出会えるのだろうか・・・」と心配しているところに、大きな小屋から笑い声と歌が聞こえました！

お邪魔してみるとニラの出荷作業をされているお母さんが６人（丹さんは３人も！）。とにかく明るく楽しいお母さんたち。そして綺麗なニラの山を規定の量と長さで束にする作業は見ていてとても気持ちが良くて素敵でした。私も経験させてもらいましたが、速さと丁寧さが到底追いつきません（笑）。

大学生にとって印象的だった言葉は、

「みんなから元気をもらっている」

「この仕事がなかったら家にいるだけ」

「稲沢はいいところだよ？」などなど。

車で通り過ぎていたら聞くことができなかった出会い。たまにはゆっくり地区を散歩するのもおすすめしたいです！次回訪れた時は丹さんが稲沢に集まった謎を聴きに行きたいと思います。

明るい「お母さんパワー」が稲沢に明るい声を届けていました！

㊤出荷作業をされるお母さんたち。迅速かつ丁寧！　㊦包装されたニラ。「達者de菜」として出荷